

【取組事例】

丸紅グループの「サステナブルコーヒー」産地での、産地支援取組方針と実際の事例をご紹介します。

＜ベトナムにおける産地支援取組方針＞

- ・ ベトナム現地輸出業者と、ベトナム産ロブスタコーヒーの品質改善取組を開始。
- ・ 取引先及び輸出業者と共に、農家に対して生産効率の改善や、農業用具の配布など営農支援を実施、農家の持続可能な生産活動をサポートしていきます。

■取組事例

- ・ ロブスタ主要生産地であるダックラック省の輸出業者の精選倉庫に、2012年に当時最新の日本製選別機を導入し、日本市場におけるベトナム産ロブスタの標準規格を確立。また、当社の品質管理員を精選倉庫に常駐させ、品質管理を実施。



▲輸出業者倉庫に2012年当時最新の日本製選別機を設置



▲当社専用精選倉庫

- ・ 取引先と共にクロンナン・エアレオ等の特定地域を選定し、輸出業者を通し約60農家に対して、農業用具、苗木、肥料の配布、営農支援などを実施し、生産効率の改善を目指す支援を行っております。



▲農家へ苗を配布する様子



▲農家への営農指導を目的としたセミナーの様子

- ・ ベトナム北部のソラ省において、輸出業者と共に、農家に対して営農指導や品質指導を実施することで、品質向上を付加価値のある商品の開発を実施しています。



▲農家への営農指導の様子

<エチオピアにおける産地支援取組方針>

- ・ エチオピアでは、輸出業者を通じ、特定地域に対して品質向上と収益性の向上を図っており、輸出業者が所有または契約を結ぶ”専属ステーション”を活用し、生産農家へ品質・生産指導を実施していきます。

■取組事例

- ・ スペシャルティコーヒー農園 Tade GG 等と連携し、農園内外で働く農家の生活を支援しています。
- ・ 生産者の多くは貧困層の多い零細農家であり、安定した雇用、教育の機会など基礎的インフラに欠けるという課題を解決すべく、品質の向上により価値ある商品を生産することで、安定した商売を元に、雇用機会の創出や学校を寄贈し、地域社会の持続的発展に寄与しています。



▲農園主: Tasfaye 氏



▲シャキツ村周辺に住む約 1,400 人の子供が通えるよう、学校を寄贈



<タンザニアにおける産地支援取組方針>

- ・ タンザニアでは、生産キャパシティの不足による品質の低下、また農家の営業知識の不足による反収の低さが問題となっており、輸出業者を通じ、農協に生産設備の提供・営農指導・シェードツリーの育苗支援を行い、品質の向上・安定化、農家の収入の拡大を目指します。

■取組事例

- ・ タンザニア南部ムベヤ地区の6つの農協と協働し、高品質コーヒーに適正価格にて買付することにより、農家に利益を還元しております。また対象農協に乾燥用ベッドの提供や営農セミナーを行い、品質改善、収量拡大を目指し、支援を行っております。



▲乾燥用のベッドを提供



▲農家向け営農セミナーを実施



▲シェードツリーの育苗を支援

<グアテマラにおける産地支援取組方針>

- ・ グアテマラでは収穫期にコーヒーチェリーを収穫するピッカーの不足が大きな問題となっています。輸出業者を通し、中・大規模農園にて働くピッカーの子女託児や支援することで、持続的で安定したコーヒー生産活動の実現を目指してきます。

■取組事例

- ・ 現地の輸出業者である Exportcafe 社と協業し、サン・マルコス地区の大農園に託児所を設け、収穫期の間、親に帯同しやってくるピッカーの子供を対象に教育の場を提供することにより、ピッカーが安心して働くことのできる環境を整備する支援を行っております。



▲託児所での授業、児童たちの様子

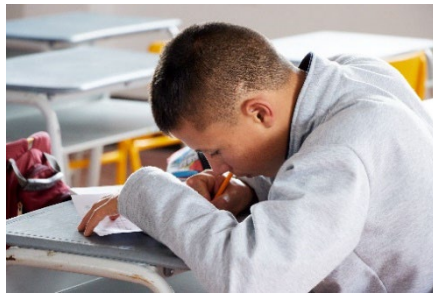


<コロンビアにおける産地支援取組方針>

- ・ コロンビアでは郊外の生産地域において教育インフラ欠如が原因で離農する若者が後を絶たず、コーヒー農園後継者が育たないという問題があります。輸出業者を通し、各地域コミュニティが課題を抱えるインフラ整備を行い、持続的で安定したコーヒー生産活動の実現を目指します。

■取組事例

- ・ 現地の輸出業者 Cónдор 社と協業し、サン・アグスティン地区の教育機関に小中学生向けの教室増設工事を支援し、コーヒー農園従事者が安心して働くことのできる環境整備を手助けしています。



▲同教室での授業、生徒たちの様子



▲教室増設工事 竣工式の様子

<ブラジルにおける産地支援取組方針>

- ・ ブラジルでは農協、農家グループ、大農園とともに、品質の改善・生産性の向上、安心安全なコーヒーの生産といった生産者の抱える課題の解決にあたっています。

■取組事例

- ・ ブラジル屈指の大農園であるモンテアレグレ農園とアジア向け独占販売契約を締結し、共同での商品開発や生産実験を通じて高品質なコーヒーの安定供給に取り組んでいます。



▲農園責任者のジョゼ・フランシスコ氏

【気候変動対応】

＜ブラジル インスタントコーヒー製造事業でのバイオマスボイラ導入＞

ブラジルのパラナ州にある Cia. Iguacu de café Solúvel のインスタントコーヒー工場に、ウッドチップを燃料としたバイオマスボイラを 2009 年に導入。工場の必要熱源の約 85%を、持続可能なエネルギーであるバイオマス燃料で生成することが可能となりました。



▲イグアスブラジル バイオマスボイラ

＜ベトナム インスタントコーヒー製造事業でのバイオマスボイラ導入＞

ベトナムのバリア・ブンタウ省に新設する Iguacu Vietnam Co., Ltd のインスタントコーヒー工場に、もみ殻及び、ウッドチップを燃料としたバイオマスボイラー（蒸気量 30MT 毎時x2 台）を導入し、製造工程で使用する蒸気を生成。化石燃料を代替することで、温室効果ガス(GHG) 排出量を削減しています。



▲気泡型流動床ボイラ



▲2022 年より稼働を開始したイグアスベトナム社

【品質保証・検査体制】

各生産国から日本に輸入し、製品化に至るまで、多段階において徹底した独自の品質保証・厳しい検査体制を確立しています。アジア、中南米、アフリカなどコーヒーの生産地域 15 カ国において、専門人材を各国に常駐させ、収穫から輸出までの各工程において適切な指導を行い、良質なコーヒー生豆の安定供給体制を構築しています。



▲生産現場を訪問し指導を行う
ナショナルスタッフ



▲各国のナショナルスタッフが東京に
集結し、勉強会を開催



▲社内での品質検査の様子

以上